んを氷砂糖で煮て（田浦町）、きんかんの煮汁（追浜町、逗子市沼間）、きんかんの葉（坂本町、池上町、吉倉町）、蜜柑の皮（横浜市戸塚町）、白南天の茎（大矢部町）、同実（上町、田浦町、大津町、追浜町、逗子市池子、鎌倉市大船）、蓮の節（長井町、平作町）、ジギタリス根（追浜町）、おんばこ葉（久里浜町、田浦町、船越町、追浜町、坂本町、逗子市沼間、池子、横浜市上倉田町）、大根を小さく切つて砂糖を加えて（汐入町）、大根おろしに砂糖を入れて（横浜市）、ききよう根（同）、とうもろこし毛（坂本町）、いなご（大津町）等がある。のどに巻いておくというのにはねぎをきざんで袋又は布に包んで（長井町、富士見町）、塩を焼いて布に包み首にまく（田戸台町）があり、ねぎを胸にはつておく（汐入町）と云うのもある。「まじない」としては例の鎌倉市由比ケ浜にある六郎様（前出）におまえりして竹筒に茶を入れてあげるとなおる、「咳でこまるからなおして下さい」と祈り、なおつたらお茶をあげる、六郎様にあがつているお茶をのむとなおる等があり、横浜市戸塚で採集されたものとして川をせきとめておき「自分のせきをとめてもらう」ととなえるとなおると云うのがある。

かぜに伴う発熱についてのものとしてはやはり煎じ汁をのむと云うのが多い。丹波ほうずき（富士見町）、しいたけ（小矢部町）、しようぶの根（田浦町）、よもぎ（浦賀町）、みみず（池上町、追浜町、横浜市上倉田町）、いなご（池上町）、しやぼてんの汁（逗子市沼間）、医者いらず（しやぼてんの一種）をおろしてのむ（富士見町）等があり、貼るとか塗るとかの類にはごはんをねつて塩をまぜ、紙にのばして足の土ふまずに貼る（内川新田町）、きゆうりをすつて足の裏に塗る（浦郷町、大津町）があり、まじないとしては茶殻を入れた枕をすると熱が下る（鎌倉市戸部町）等がある。

要するに植物や虫の煎じ汁をのむとか、汁を塗つたり、細かに切つてあてておくと云つた漢方医的のものと、「まじない」とが行われていることがわかる。前者は案外広く行われているようである。

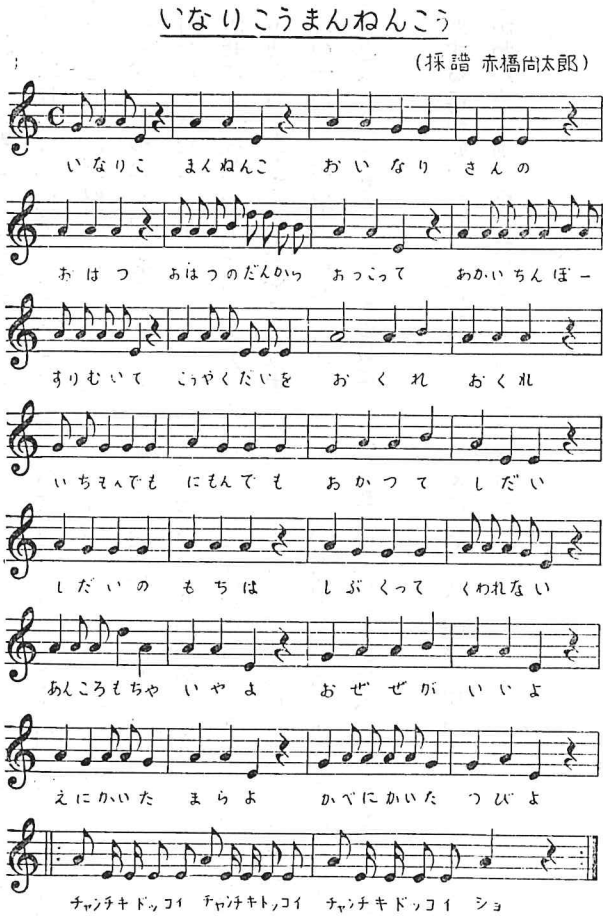
ほめことば

青木　進

横須賀市野比で行われていた「ほめことば」を採集したから次に記す。これは祝の席で代表者が祝の言葉としてとなえたものだが今の若い人達はあまり知つていないようである、

「正月二十八日のことなれば、村の若いし集まつて、武山不動へ参詣し、さいせん三文うちなげて、北を遥かに眺むれば、はげ、ほんもく、十

二天、ししもかむらずはげあたま、大津の浜の諸人共、猿島沖で網をしく、ひいて走るが走水、ちよいとさげるが三軒家、観音崎とわ小原の台、鴨居腰越鳥ケ崎、鳥ケ崎にて眺むれば、浦賀の港わよい港、出船入船このえり船、かかりた、船のともずなわ、えんややわた久里浜、千駄砂山うち越え、拙者の心わ野比〳〵と、十もんだいとわ、長沢村、津久井の浜千鳥、うんとふんばりや上宮田、おなわなんとじや菊名村、金田ごぼうに松輪のり、びしやもんわかめ、原で名物狐そばと下へさがりてしききてうやまつてほめもうそう」



「いなりつこ」の文中に入るべきものであつたが都合により此処に入れた。高橋恭一氏にうたつてもらつて採譜したものである。

（赤橋尚太郎）